

授業科目名 <英訳>	系共通科目（基礎現代文化学）(講読II) Basic course of Modern Culture & History(Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 助教 藤井 俊之					
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2017・ 後期	曜時限	火1	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目	独書講読 II										
【授業の概要・目的】											
Theodor W. Adorno: Ohne Leitbild. Parva Aesthetica(Frankfurt am Main 1968)から特に一論文Ueber Traditionを取り上げて読む。											
<p>家族、地域共同体、民族、国家に共通して見出される集団的記憶の貯蔵庫としての伝統という概念については、それを進歩を阻む足かせとして捉える議論とともに、歴史意識の弱体化の表れとしてのその喪失を嘆く声が常に同時に聞かれる。20世紀、ナチスの時代を亡命先のアメリカで過ごした、ドイツの思想家アドルノの論文「伝統についてUeber Tradition」には、どちらの方向に進んでも出口の見えない伝統との関係の結び方について、真にそれを活性化する方法の提案がみられる。それが単に伝統を放棄するものでないのはもちろんではあるが、他方で伝統の墨守を彼が主張しているわけでもない。時間意識が失われつつある現代において、過去を緊張感をもって捉えるためにはどのような方法が残されているのか。アドルノの議論を精読することを通じて考えていきたい。</p>											
【到達目標】											
必要分野での文献を読み解けるドイツ語の読解能力を養う。また、文献に現れる引用の読解を通じて、テキストの背景となる歴史的事象を考慮することを学ぶ。											
【授業計画と内容】											
第一回目にイントロダクションを置いて、その後の授業はテキストの訳読を中心に進める。その際に、全員が一度は担当を持つようにする。また、全体の総括として期末にレポートを課す。											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
平常点と期末レポートで採点する。授業への出席と、必ず一回は訳読を担当することが求められる。それを踏まえて、期末レポートで各自の理解を測りたい。											
【教科書】											
授業中に指示する											
【参考書等】											
(参考書) 授業中に紹介する											
----- 系共通科目（基礎現代文化学）(講読II)(2)へ続く -----											

系共通科目（基礎現代文化学）(講読II)(2)

[授業外学習（予習・復習）等]

授業に備えて予め文献のドイツ語の予習をすることが必要である。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。